

関連する内容項目：1－(3)

よいことと悪いことの区別をし、よいと思うことを進んで行う。(解説p.40)

事例

場面1 休み時間等日常的な生活の場面

本人が仲良く遊んでいるつもりでも、遊びと暴力の区別が付いていないために、友達をたたくななどの暴力的な行為をする児童がいます。このような場合には、遊びと捉えず、暴力的な行為として、毅然と指導する必要があります。

例えばこんな場面が見られたとて...

体が大きくて力が強いAさんが、自分より体の小さいBさんを床に倒し、楽しそうにプロレスごっこをしています。Bさんが「やめて」と言っているのに、AさんはBさんの上に乗って遊んでいます。



何をしているんですか！

遊んでいました。



友達をたたいたり、上に乗ったりするようなことは、遊びとは言いません。Bさんが嫌がっているのが分かりませんか？お互いに楽しくなければ、遊びとは言いませんよ。



AさんがBさんと同じようにされたら、それでも楽しく遊んだと言えますか？

楽しくないです。僕も嫌です。



そうですね。自分がされて嫌なことは、相手も嫌な思いをしますよね。これからは、Bさんとのように遊んだらよいと思いますか？

【指導上の留意点】

- ・乱暴なことや痛みを伴う行為は「遊び」ではないことをきちんと分からせる必要があります。見かけたときには、すぐにその場で指導することが必要です。そして、友達との遊び方や関わり方について、繰り返し指導する必要があります。
- ・いじめに発展する可能性があることから「遊びです。」という児童の主張をうのみにせず、暴力は絶対にしてはいけないことをきちんと指導することが必要です。

場面2

授業中や休み時間

この時期の児童は、感情のコントロールや言葉で伝えることが未熟であると考えられます。そのためトラブルがあったときに、言葉ではなくいきなり暴力に出てしまうことがあります。こうした場合、暴力をふるわれた友達の気持ちを考えさせるなど、暴力をふるうことはいけないことに気付かせ、友達とのコミュニケーションの取り方を伝えることが大切です。

例えばこんな場面が見られたとせ...

Aさんが休み時間に鬼ごっこをして遊んでいると、近くでボール遊びをしていたBさんの蹴ったボールが、偶然Aさんの頭に当たりました。Aさんは「何だよ」と怒りながらBさんに近付き、いきなりたたいたので、そのまま二人はつかみ合いのけんかになってしまいました。



やめなさい！二人とも何をやっているのですか！

Bさんが、いきなりボールをぶつけてきたんです！

違うよ！Aさんがいきなりたたいたんです！

暴力をふるってははいけません！何の解決にもなりませんよ。たたかれたとき、どういう気持ちになりましたか？

痛かったし、嫌でした。



じゃあ、どうすればよかったのかな。
いきなり理由も聞かずにたたくことは絶対にいけません。まず理由を確かめましょう。ただ、たとえどんな理由があっても、人をたたくことはよくないことです。
Bさんも、わざとぶつけたのでなくても、すぐに謝っていれば、けんかにならずに済んだのではありませんか？

【指導上の留意点】

- ・暴力でなく、話し合いで解決できるよう児童に考えさせましょう。
- ・低学年は、友達との関係づくりについても丁寧に指導することが大切な時期です。小さなトラブルでも見過ごさないようにしましょう。

「こころのノート」との関連

「しては ならないことが あるよ」(p. 32)

「友だちと いっしょ」(p. 44)

「友だちパワーをあつめよう」(pp. 46-47)

関連する内容項目：1－(4)

うそをついたりごまかしたりしないで、素直に伸び伸びと生活する。(解説p.41)

事例

場面1 体育の縄跳びの授業

児童は、友達目を気にして「できないことは恥ずかしいこと」と受け止めていることがよくあります。そのため、少しでも自分をよく見せようとして、うそをついたりごまかしたりすることがあるので、その場面で気付いたときは行動を振り返らせ、指導することが大切です。

例えばこんな場面が
見られたとき……

体育の縄跳びの授業のときに、跳んだ数をペアになってお互いに数え、記録していました。そのとき、AさんとBさんのペアは、少しでもよい級にしようとして、実際に跳んだ数より多い数を記録しました。
周りの児童がその様子に気付き、Aさんたちがうその記録をしたことを先生に伝えました。



君たちは跳んだ数と違う数を記録していたようですが、本当はどうなのですか？

はい。あと3回で、一つ上の級になれるから、そのくらいならいいかな、と思って……。



誰でも、上の級を目指して頑張っています。数をごまかして上の級になって、心から喜ぶことができますか？



こういうことが続いてしまうと、君たちが言ったことはみんなから信じてもらえなくなるのが心配です。



信じてもらえなくなるのは嫌だな……。

【指導上の留意点】

- 自分をよく見せようとしたり、できないことを隠したりするために、うそをつくことがあります。しかし、それは結果として自分のためにはならず、友達の信用も失ってしまうことに気付かせる指導が大切です。
- 普段から友達の間違いや失敗を笑わずに、いつでも温かい気持ちで受容するといった、うそをつかなくても済むような学級の雰囲気づくりに努めていくことが大切です。

場面2

朝の会等で提出物を集めるとき

この時期の児童は、叱られたくないためにとっさにうそをついたり、ごまかしたりすることがあります。いけないことをしてしまったときは素直にその非を認め、謝ることができるようにすることが大切です。



音読カードが提出されていなかったけれど、どうしたのですか？

音読はしたけれど、おうちの人がチェックしてくれませんでした。

Aさんはきちんと読んだのに、おうちの人がチェックを忘れてしまったのですね。

.....

どうしたのですか？何か言いたいことがあるのですか？

ごめんなさい。本当は読んでいません。

宿題を忘れたことをごまかそうとしたのは、いけないことです。でも、自分から正直に言えたのは偉いですね。正直に言えてどんな気持ちですか？

嫌な気持ちが取れて気持ちよかったです。

その気持ちを忘れないでください。間違いは誰にでもあります。最初から正直に言えると、もっと気分がよかったですと思います。これから気を付けましょう。

【指導上の留意点】

- ・うそに気付いても、すぐに叱るのではなく、話を聞いて、その状況に応じて指導するようにしましょう。
- ・間違いは誰にでもあることを伝え、児童の気持ちを受容しつつ、素直に生きることのよさや大切さに気付かせましょう。

「こころのノート」との関連

「うそなんか つくもんか」(pp.26-27)

「しては ならないことが あるよ」(pp.32-33)